

### 木屋瀬宿安政六年『年中御用留』

#### 《安政の三日コロリ》其の一

木屋瀬みちの郷土史料保存会 松尾 良美

表題の「年中御用留」とは、当時の村庄屋左平が藩や公義(幕府)の通達を郡奉行所や触(この年代には木屋瀬村は上境触)の大庄屋加藤太右衛門(上境村)から伝達された文書を記した留書書き留めた記録である。

また、留書には触下村の木屋瀬村庄屋・組頭よりの請願・諸注進・諸指し等の取り集め・奥書(本文の内容を証明する文)・年貢の収納等々が記されている。この留書は、挿絵として本文に掲載されているように、和紙を二つ折りで七十九枚を紙捻で綴じた帳面であり、表紙も欠落し紙魚(紙を喰い荒らす虫)の喰った跡が残り黄ばんで所々が判読でき難い、百四十数年前の村庄屋自身の留書である。

表紙が欠落しているのに「年中御用留」という表題がある理由は、十年前に史料館がオープンする前に展示する物品や古文書を選定する展示計画策定委員会の委員長だった九大名誉教授丸山雅成先生が、分類袋の表題項目に「年中御用留」と記されたのである。

この留書には、江戸時代には地震や火事と共に人々に恐れられた疫病に関する事、種痘の名簿、現代では死語(全く使用されない語句)に等しい宗旨未進判等の興味深い事柄が幾つか記述されていたので取りあげたい。

さて、「年中御用留」に戻るが、次なる注進(急ぎ申し述べ)が村庄屋より届け出されている。

一 男 一人 忠右衛門  
右者は当月九日吐瀉仕候二付早速御施薬丸一粒二度二相用候処手足共熱発清快仕申候(容体が快方)

一 同 一人 六太郎  
右者同夕同ジ病之容体二付御施薬丸一粒二度二相用候処清快仕申候

一 同 一人 圓太郎  
右者当月十一日夕同ジ病之容体二付御施薬丸一粒二度二相用候処清快仕申候

一 同 一人 重蔵  
右者同夕依十三日迄同病之容体熱発二付御施薬丸三粒ヲ追々二相用候処清快仕申候

右の通り、八月九日以来、僅か十二日間に吐瀉という同じ症状で、二十三人に及ぶ多人数が連記してあることは、前年に江戸で流行したというコレラに相違ないと思う。安政五年七月の江戸では、猛威をふるったコレラはコロリコロリと死ぬので誰と云うとなくコロリと称するようになったそうだが、文面では唯吐瀉と記されているが、当時の状況を記録した、「武江年表」なる文獻がある。まず嘔気を催し、吐瀉に続いて瀉痢し、手足が萎えたと記してある。感染経路らしき事柄も注進されており、全ての患者に御施薬の丸薬なるもの、治療した医者なる者等々について、次回には詳しく発表していきたいと思



### 「こやのせ座 納涼落語会」

「暑さを笑いで吹き飛ばそう」のキャッチフレーズで恒例の「こやのせ座納涼落語会」ですが、今年は、8月21日(日曜日)に開催され、残暑厳しき中にも拘らず百名を優に越える観客で「こやのせ座」は大いに賑わいました。

今回の出演者と演目は、新森修二氏こと粗忽屋鉄平(そこつやてつぺい)が「粗忽の釘」佐藤弘毅氏こと於屋馬亜(おやまあ)の「皿屋敷」中入り後には、浦田一幸氏こと好色亭勤六(こうしよくてい かんろく)が「粗忽の使者」最後の取り(真打ち)を佐藤弘毅氏・於屋馬亜(おやまあ)が「唐茄子屋政談」を熱演されましたが、毎度お馴染みの芸達者な面々の益々円熟してきた高座に観客は暑さを忘れて惹きつけられました。

最後に、於屋馬亜こと佐藤弘毅氏に於かれましては、現在の勤務地・東京都より遠路遙々、毎回、自費参加戴いて居りますことに心より感謝を致します。



こやのせ座 宿場町木屋瀬。伝統を受け継ぎ、次世代を育む長崎街道木屋瀬宿記念館。

## 寄せ太鼓

長崎街道木屋瀬宿記念館  
北九州市八幡西区木屋瀬三丁目16番26号(〒807-1261)  
TEL 093-619-1149 FAX 093-617-4949

### 覚悟も新たに...

## 第19回 宿場まつり

### 覚悟も新たに 第19回 宿場まつり

九月二十二日、このまつりの実行委員会を立ち上げました。例年、この実行委員会は、関係団体と専門部会からの代表者会議のかたちで具体案を審議してまいりました。が、しかし、十九回目となる今年は、宿場まつりのアニバーサリー20と長崎街道前六宿完全開通四〇〇周年を来年に控え、

いま一度、原点に帰り新鮮さを取り戻そうと、スタッフに新しい血を導入するとともに、会議も実行委員全員参加とするなど覚悟を新たにいたしました。この

### 《あなたも蕎麦打ち名人に...挑戦》

○日時: 12月28日(水曜日) 10時~15時

○参加費: 一、二〇〇円(材料費 7人分持ち帰れます)

※追加一〇〇〇円で別途7人分持ち帰れます

○人数: 30名(予約制)

※そば打ち名人に保存法・調理法ほかも指導していただきます。

○申込先: 北九州市立長崎街道木屋瀬宿記念館事務局  
TEL 093-619-1149



けに総踊り、子どもも宿場踊りを楽しんでいます。さらに町並み資料館、中学校吹奏楽部や部活動のパレード、小学生の学習発表など、先ずは、「コヤンセのモン」の気張りを見せ、



木屋瀬の住民がまつりを楽しみ、充実感を味わうこと、これが第一です。そして、外來の方々に歴史のまち木屋瀬を覽せ、味あわせ、その魅力を大いに発信しようではありませんか。

それでは、「いさー。あとせー」(レッツ・ゴー!)

### 今年の夏はマジで暑かった!!

歴史と伝統の木屋瀬最大の祭礼である祇園祭り。今年一番山笠の当番町として本町が務めました。厳肅の中盛大に奉納行事である、お汐とり、事務所開き、奉納、宮入とけがもなく無事終えることが出来ましたこと、心より厚く感謝申し上げます。

山笠巡行が盛大に行なわれた中、神事行事である前夜祭祭典(夏越大祓正祭祭典が荘厳に行なわれ、木屋瀬町内の繁栄と無病息災を願う事ができ、改めて歴史と伝統の中にあるおゆかしさを感ずる事が出来ました。

また本町は31戸と少ない町内の中で男性は1人何役をもこなした女性の方はおいしい食事を準備提供して下さり頑張っていたいただきました。当番町の役務を無事終える事が出来ましたのは、本町六町の出仕者の皆さんの絶大なる尽力のお陰と厚く感謝いたします。

有難うございました。

赤山笠総取締 石津 充(本町)



五百六十有余年の歴史と伝統を持つ木屋瀬祇園の青山の当番町としてその責任を無事果たすことが出来ましたのはひとえに暑さの中で頑張りぬいていただいた沢山の出仕者の皆さんのお陰と厚く感謝し、お礼申し上げます。

暑い二日間、取締り、掛合、行動、交通、保護と各役割をきちんと果たしていただいたため、勇ましく、華やかな祇園祭りが、安全無事に終了することができました。

男性主体の祭りの中で、裏方役に徹し献身的に頑張られた婦人部隊の皆さんに敬意を表し厚くお礼申し上げます。

最後に、当番町の看板を日の出町にお渡しし反省会も終了いたしました。

青山笠総取締 川崎 秀人(中央町)



### シリーズ 筑前木屋瀬宿神仏めぐり

#### 第二十三回 福寿山常樂寺(笹田の薬師堂)

「前に登る金剛山 後に流る遠賀川」の一節は木屋瀬小学校の校歌の冒頭ですが、まさに木屋瀬の自然を象徴している言葉のようです。

その金剛山の麓に鎮座されていますが、福寿山常樂寺です。木屋瀬の人は昔からお薬師さんと呼んでいます。木屋瀬町史によると、「昔は大寺なりしが、天正年間(一五七三〜一五九一)に廃寺となり薬師堂のみ残る。

堂内の薬師如来三尊は、奈良の大仏勧進に貢献のあった行基大僧正の作であると伝えられて、一五〇〇年を経過する古刹である」と記してあります。

夏の終わり頃、お薬師さんを訪ねて見ました。



薬師堂

木屋瀬宿から二百号線を横切り笹尾川に沿って、山裾へ進んで行くと、さくら並木通りがあり、その入り口付近から境内に入ることができ、薬師堂の隣には笹田公民館がありました。

お堂の周辺は巨木が立ち並び、法師蟬の音が山に響き、霊気が感じられるような雰囲気です。お堂の本尊薬師如来にふさわしく自然と一体となった薬師の世界のようです。薬師如来は、「薬師瑠璃光如来本願功德経」による仏で、薬師如来が修行の身であった菩薩時代のすべての人々の病を治し、健康にしたいとの思いから願を立てられ、大変な苦行を成し遂げられ、薬師如来と名づけられ法力を得られたと説かれています。その法力によって衆生の病を取り除き延命を施してくれる仏として多くの人々の信心を得ました。奈良の薬師寺は、

天武天皇が皇后の病を治す為に発願され、持統天皇によって完成されたお寺です。

仏界では、薬師如来は東方の浄瑠璃国の教主で、西方は阿弥陀如来の浄土の国があると説きます。

笹田の薬師堂は、木屋瀬の東方、朝日の昇る金剛山の麓に、浄瑠璃国の出現を願って建立されたのでしよう。

堂内の正面には、蓮華台の上に結跏趺坐された坐像で、左手の指先を前に向けて開き、右手には薬壺を載せた本尊の薬師如来が鎮座されています。両脇侍には、日光菩薩と月光菩薩が置かれています。この三像を薬師三尊と呼びます。又、前面に、十二神将が立ち並び、天空を守る四天王の尊像もあり、お堂の中に所狭しと安置されています。ただ、大変古い仏像であるので痛みがひどく落はくしているのが残念です。この仏像群から千五百年前には、この地は素晴らしい伽藍が立ち並び仏の世界があり、多くの参詣があったことが窺えます。

現在は真言宗の寺となっていますが、開基当時は法相宗か他の学派であったと思われる。

このような古い仏像や薬師堂が代々の笹田の人達によって伝え残されていることは深い驚きでした。私は初めてこの訪問でしたが、祖父が笹田の出身であり、この境内も馴染みの場所であったであろうと思うと感慨深いものがありました。



薬師如来

#### 山鳥のぼろぼろと鳴く声

聞けば、ちちかちかと思ふ、ははかとぞ思ふ、行基

本町 野口靖彦

### 木屋瀬七夕祭りと星座早見

木屋瀬天文同好会副会長 数住 宗貴

8月6日、恒例の七夕祭りがこやのせ座で行われました。5時半からそれぞれの願い事を書いた短冊を笹の葉に飾りつけ、7時より人形博士ドヴィル・ドラによる人形劇が行われ大変好評でした。屋内で今夜の月と星空や夏の星座、ペルセウス流星群について勉強をした後、外に出て、星空の観測をしました。この日はお天気が心配でしたが、何とか雲の間から上弦の月が観測できました。

長野酒店の長野会長が、実際の星空をながめながら織姫星や牽牛星の見つけ方を教えてくださり、それから一緒に望遠鏡で土星の輪を見たりいたしました。このイベントは、いつも沢山のボランティアの方から支えられて開催しています。大きな笹を伐り出してくださる方々、短冊を用意して下さる方々、お料理を作ってくださいくださる賄い係の方々と、さらに今年、大野城市に今年オープンした望遠鏡ショップ「天文ハウス」とみん ○九二一五八一九五二三」様から、星座早見製作キットを五十人分、無料でご提供頂いたの、小学生以上は星座早見盤と一緒に作り観望ができました。初心者からマニアまで気軽に相談できる九州でも経験・品揃え一番のお店です。「子供に買い与える初めての望遠鏡はどれがいいか」と私もよく質問を受けますが、これは大変難しい質問で、よく見える望遠鏡は、以外と大きかったり重かったりします。でも小学六年生の時に貯金をおろして買ったすこし重い望遠鏡を、私は未だに愛用しています。実際に手にとってサイズや重さを実感しながら、目的に応じた種類を選ぶことが大切です。

いつも、参加した子供たちが宇宙や科学の不思議に興味を持つきっかけになってくれればと願っています。広大な宇宙に比べれば、私達を悩ませる問題のなんとちっぽけなことでしょう。

宇宙を眺めることが、明日を生き抜く活力源になってほしいと思っています。二年前には皆既日食が話題になりましたが、来年の5月12日の朝7時ごろ日本全国で金環日食があります。太陽が三日月型やドーナツ型になりますが、観察グラスを使用する等して直接太陽を見ないようにしましょう。眼を痛めます。

お終いに、お知らせです。月遅れの8月7日に、七夕のイベントを行いました。準備が、毎年曜日がまちまちになるため、準備スタッフに大変迷惑をおかけしてしまいました。そこで今後旧暦の7月7日に一番近い土曜日に開催する予定です。よろしくお願いたします。



### 歴史と伝統にはぐくまれた木屋瀬

祇園祭りの余韻もさめやらぬ頃、第一回目の盆踊りの打ち合わせに入り、盆踊りモードへと切り替え、もう夏も終わりとちよつと寂しくなる。今年は何軒、初盆があるのか

か盆踊りの世話人で話題になり、少ないと内心ホッとしたりもする。(いろんな意味で...) 躍りの世話をしている、スケジュール等に振り回され、初盆家で踊る本来の躍りの気

持ちを忘れてはいないか等、いつもながら反省する。盆の十三日の宵になる頃、木屋瀬宿記念館の広場で「寄せ太鼓」が打たれ、本町六町盆灯籠会と新町五町盆灯籠会の「庭寄せ」が行われ、木屋瀬の盆踊りが始まる。

「庭寄せ」で、ひと躍り、ひと汗流し「こやのせ座運営部会」の皆さんによる「かき氷」の接待を受け、各町内の初盆の家へ「ごぶたい屋台」を曳き出発。初盆家では門口に祭壇を設け、踊り子を待つ。「並み手・みやこ・並み手」と三曲踊り、飲み物等の接待を受け、浴衣掛けに下駄の歯音をカラコ口と響かせ、次の初盆家へと向かう。

8月28日の打ち上げは参加者全員に声をかけ、木屋瀬宿記念館広場で行った。子どもたちは走り回り、中高生は隅でそつと肉を焼き、大人はビールを片手に大声で笑う。こういった空間を通して、伝統文化を大切に継承していくかなければならないと、つくづく実感した。

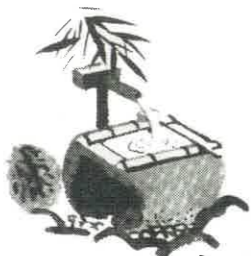
最後になりましたが、初盆家におかれましては踊り子に対し手厚い接待をして頂き心より感謝申し上げます。月に踊り、花に歌い、雪の宴にも歌い踊られ三百年、これからも栄え長く続いて欲しいものです。

新町五町盆灯籠会 八尋 弘文

#### 見はるかす山々と木屋瀬

文明元年、一四七八年、金剛山の麓の住民が初めて、石炭を発見している。畑の持主、杉七郎太夫興則が、これを篝火に利用していたと伝承がある。金剛山は何も際立った山容ではないが、木屋瀬の人々には、小学生時代からの遠足や登山等で、数多くの思い出があつて懐かしい山である。左には、帆柱山皿倉山尺岳が見え、花尾城や神宮皇后にまつわる多くの伝説を蔵し、女や子どもも登れる、見晴らしのよい山である。右には、高取城跡を見せ、福智山が近くに雄大に迫っている。猪がとれていて、四本の足をくくり、これに棒を通し二人でかつぎ、売りに来ていた。路傍での切り売りであった。

麓には、孕み猿の物語が伝わる秘境があり、岩見重太郎の狒狒退治の物語が生まれた村もあり、名陶の里もある。日毎に削られていて、野生の猿が気になる、香春岳も見える。香春城落



### わたしの昔話

んでいる。全長十五里の、遠賀川のみなもとであり、私達の生活の基源とも言えるお山である。三千の坊を従え、多数の修験者の道場であり日本屈指の霊峰である。この霊峰の修験者が、寒風を突いて木屋瀬に降りて来る。ホラ貝を吹きならし町を一巡する。町の人々は家の前に、大き

な水桶を置き満々と水を張っておく。二巡目、修験者は水桶を頭上に高く見事に浴びてしぶきを散らし、次々に水に挑み、さまざまの気力で、経文を唱えながら進み行く厳寒の中で、町も人々も引き締まった清々しさに打たれる。西には、六ヶ岳がある。古くは崎戸山と呼ばれ、宗像神社の三女神が御降臨された山とも言われ、長谷の八幡神社の、最初の祭神は、宗像三女神であった。この地から宗像の田島大島沖の島に移られたと、考えられているようである。

木屋瀬の人々は、陽が昇る金剛山と、中天の太陽に厳然と在る英彦山と、陽が静かに降りる六ヶ岳に守られながら、常に感謝の祈りを捧げている。

#### 風々からよ風もなかりけり

本町 柴田由美子



今年の盆踊りも無事終え、参加者も少しづつではあるが増えているようだ。練習も事前に二日間行い、各町内会長さんをはじめ、多くの方々にご協力を頂きました事にこの場をかりて深く感謝申

8月31日(木)まで開催しておりました、第43回企画展「なんじゃろ館〜じっちゃんとはっちゃんに聞く昔の道具と暮らし〜」展の来場者は、1091名とたくさんの方に来館していただきました。皆様のご来館誠にありがとうございました。また、現在当館常設展2階におきまして、世界記憶遺産に登録されました山本作兵衛氏の作品を4点展示しております。1階には山本作兵衛氏に関する書籍を多数置いてありますので、こちらをご覧ください。